

* 関 勝 則 「私の昭和時代」 探訪。

《30》

昭和40年(1965年) 横浜市はウクライナ・オデッサ市と姉妹都市を締結 戦時下に深まる姉妹都市の絆

ロシアのプーチン大統領によるウクライナへの軍事侵攻は、一瞬にして世界中を緊迫の渦に巻き込みました。連日報道される惨状を目の当たりにするたび、本当に胸が詰まります。黒海に面したウクライナ第3の都市であるオデッサ市においても戦火が広がりつつあるようです。横浜市は、そのオデッサ市と姉妹都市(昭和40年に締結)として保健医療やスポーツの分野で長年交流を行ってきました。

そうした縁もあって、2月25日には市会議長名でロシアの侵攻に対し抗議声明を発出し、3月10日から市庁舎に犠牲者への追悼のための献花台と募金箱を設置(全区役所含む)して、市民の方々に人道的支援を呼びかけています。

自民党としても各区において所属議員が募金活動を実施し、磯子区では3月19日にJR新杉田駅前で行わせていただき、大変多くの温かいお気持ちをお預かりしました。募金はウクライナ赤十字を通してオデッサ市へ送金させていただきます。予定です。



この間、市長、正副議長がウクライナ大使館に招かれ、リモートによるオデッサ市長との会談が実現し、両都市パートナーシップの継続と復興支援へ向けた支援として横浜市予算から2000万円を拠出することを確認しました。

また、国会でウクライナのゼレンスキー大統領がリモートによる演説を行った3月23日には、横浜市会の本会議において「ロシアによるウクライナへの侵攻に非難するとともに、国際紛争における武力行使の根絶を求める決議」を全会一致で採択しました。

決議文の内容は「ロシアによるウクライナへの侵略は、武力行為を禁ずる国際法と国連憲章に対する重大な違反であることであり、この侵略行為を最も強い言葉で非難するとともに、ウクライナ国民ならびにオデッサ市民の苦難に心から寄り添い、避難民の受入態勢づくりに率先して取り組むことを表明し、このような国際紛争における武力の行使が、世界のいかなる場所においても二度と繰り返されることがないように、すべての国連加盟国に要請する。」ものです。

横浜市は、国連から認定された「ピースメッセンジャー都市」として、これからも自治体外交を推進し国際平和を希求して参ります。

関勝則の
市会日記

令和4年度当初予算案 局別審査

1月31日に開会された第1回定例会では、令和4年度当初予算案の審査が進められ、会期末の3月23日に開かれた本会議で新年度の予算が成立しました。その間に行われた審査のうち、私は自民党を代表し資源循環局関係について質しました。

コロナ禍のごみ収集

2年前の感染症流行初期には、家庭ごみが10%以上増えたが、今回の第6波でも増加傾向がみられる。ごみ収集業務を縮小することになった台東区の例もある中、今後も安定的な収集をしっかりと確保すべきと考えるが。

局長 家庭ごみの収集は生活インフラのひとつとして決して止めることはできない。コロナ禍でも感染症対策を徹底し、収集を継続することで、市民の安全・安心な日常生活を支えていく。

保土ヶ谷工場の再整備

予算案では、ゼロカーボンヨコハマの実現に向けて保土ヶ谷工場の再整備が重点政策に掲げられており、自民党としても横浜市の脱炭素化に向けた具体的な取組と期待している。ごみ焼却工場は、安定的にごみ処理を行うだけでなく、エネルギー供給においても重要な施設となる。保土ヶ谷工場を脱炭素社会の一翼を担う焼却工場とすることに対する見解を伺う。

副市長 この事業は、横浜市が2030年の温室効果ガス50%削減、2050年の実質排出ゼロを実現するための中核的な事業である。ごみ焼却工場を中心とした環境と経済の好循環を生み出せるよう創出される再生可能エネルギーの市域での活用を推進し、脱炭素社会の実現とともに、横浜の持続的な発展に貢献していく。

ごみ焼却に伴い発生する熱の地域活用

資源循環局では、来年度からごみの焼却に伴い発生する熱を地域で活用する検討を始める。すでに国内では住宅等の冷暖房用熱源やビニールハウス等の温度を保つことなどに利用されているが、今回の検討内容を伺う。

局長 鶴見工場周辺に多数立地している大規模な製造業者が製品の製造過程で利用する、石油や石炭、都市ガスなどで発生させている蒸気を、ごみの焼却で発生する蒸気に置き換えることを想定している。製造業者が利用していた化石燃料を減らし、温室効果ガスの削減につながるもの。

局長 今後、市内各工場周辺の条件に合わせた地域活用についても検討を進めていく必要がある。

局長 市内には、臨海部の産業が集積した場所に立地する鶴見、金沢工場のほか、住宅地に隣接する旭、都筑、保土ヶ谷工場がある。今後は、地域給湯などの地域活用についても検討を進める。